NWQグローバル厳選証券ファンド
愛称：選択の達人

2018年11月ﾌｧﾝﾄﾞ設定から3年が経過
～振返りと今後の戦略～

2022年1月18日

平素は、『ＮＷＱグローバル厳選証券ファンド（愛称：選択の達人）』をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「為替ヘッジあり／隔月分配型」、「為替ヘッジなし／隔月分配型」は、2021年11月17日に決算を迎え、当期の収益分配金（1万口当たり、税引前。以下同じ。）をそれぞれ以下のとおりと致しましたことをご報告申し上げます。なお「為替ヘッジあり／資産成長型」および「為替ヘッジなし／資産成長型」の決算日は毎年3月17日および9月17日（休業日の場合翌営業日）となっております。

今後ともファンド運用にあたっては、パフォーマンスの向上をめざしてまいりますので、引き続きお引き立て賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

各コースの分配金（１万口当たり、税引前）

	為替ヘッジあり／隔月分配型	為替ヘッジなし／隔月分配型	為替ヘッジあり／資産成長型	為替ヘッジなし／資産成長型
当期決算　分配金	30円	70円	-	-
基準価額 2022年1月17日現在	10,664円	10,583円	11,299円	12,062円

※分配金は、決算の都度、収益分配方針に基づいて委託会社（大和アセット）が決定しますので、将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、分配金の変更あるいは分配金が支払われない場合もあります。
※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。
※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

『ＮＷＱグローバル厳選証券ファンド（愛称：選択の達人）』の収益分配方針は、次のとおりです。

［隔月分配型］

①分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。

②原則として、継続的な分配を行うことを目標に分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

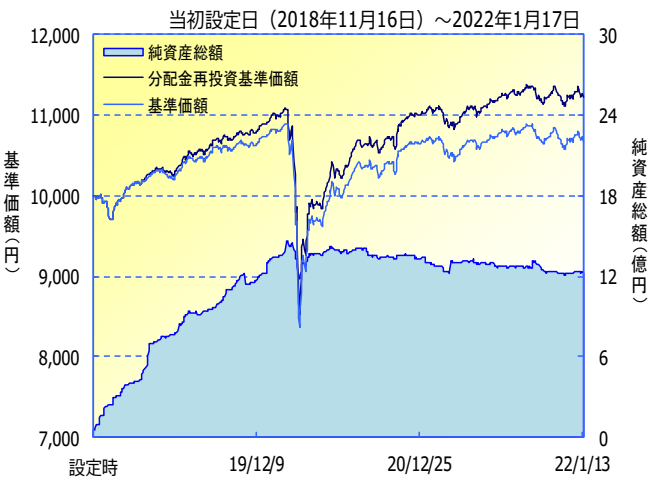
［資産成長型］

①分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。

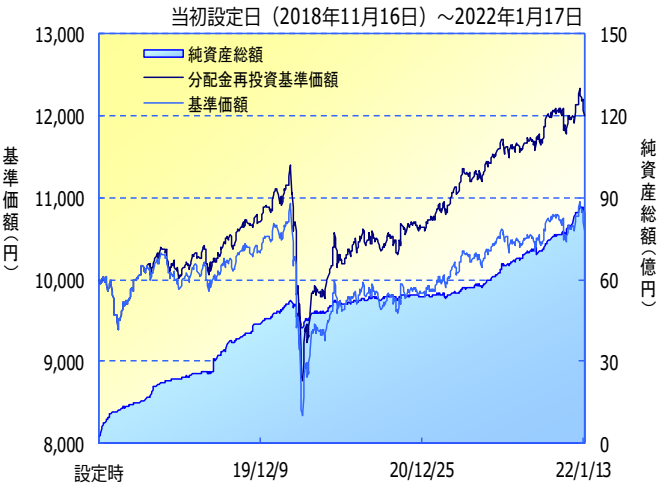
②原則として、信託財産の成長に資することを目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、配当等収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

基準価額・純資産の推移

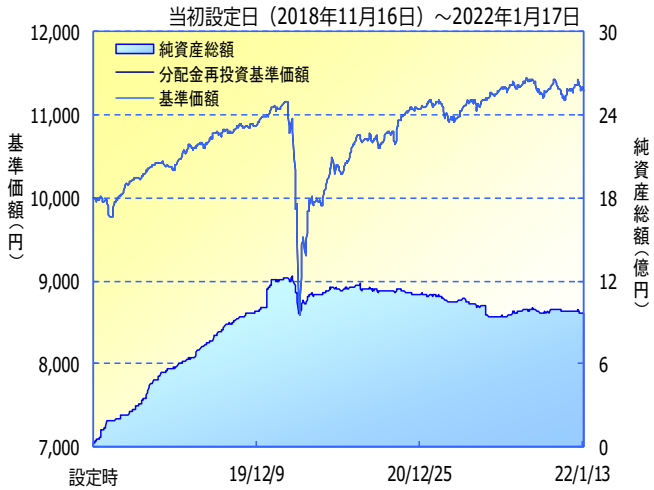
為替ヘッジあり／隔月分配型



為替ヘッジなし／隔月分配型



為替ヘッジあり／資産成長型



為替ヘッジなし／資産成長型

※「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。
※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

直近一年間の分配金額および設定来分配金額合計（1万口当たり、税引前）

為替ヘッジあり／隔月分配型

決算期（年/月）		分配金
第12期	(21/01)	30円
第13期	(21/03)	30円
第14期	(21/05)	30円
第15期	(21/07)	30円
第16期	(21/09)	30円
第17期	(21/11)	30円
第18期	(22/01)	30円
分配金合計額		設定来： 540円

為替ヘッジなし／隔月分配型

決算期（年/月）		分配金
第12期	(21/01)	70円
第13期	(21/03)	70円
第14期	(21/05)	70円
第15期	(21/07)	70円
第16期	(21/09)	70円
第17期	(21/11)	70円
第18期	(22/01)	70円
分配金合計額		設定来： 1,260円

為替ヘッジあり／資産成長型

決算期（年/月）		分配金
第5期	(21/03)	0円
第6期	(21/09)	0円
分配金合計額		設定来： 0円

為替ヘッジなし／資産成長型

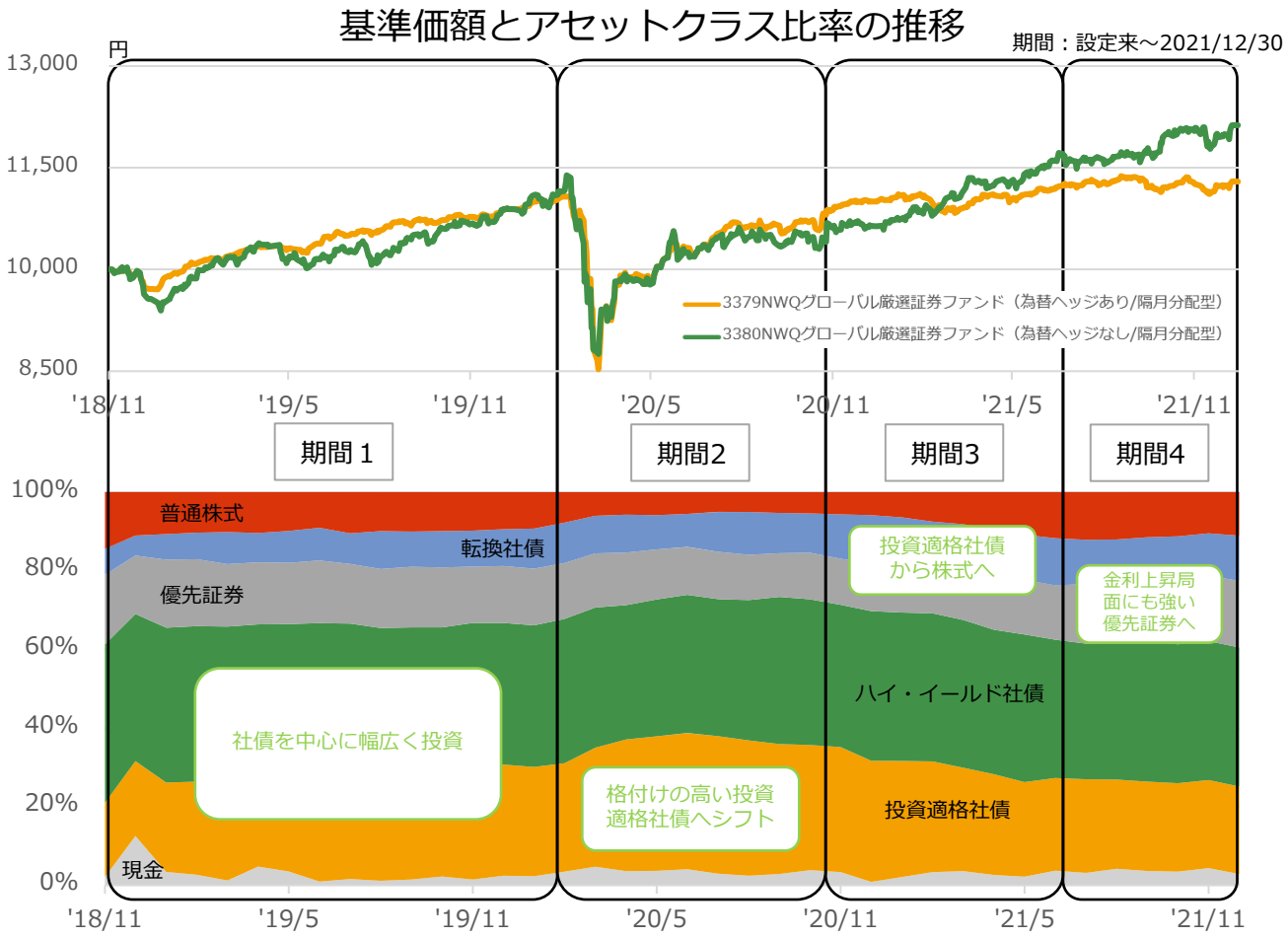
決算期（年/月）		分配金
第5期	(21/03)	0円
第6期	(21/09)	0円
分配金合計額		設定来： 0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。
　分配金が支払われない場合もあります。
※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

お伝えしたいポイント

- ファンド設定から3年が経過～市場環境と各アセットクラスの相対的割安さを踏まえた投資を実践
- 良好な経済状況継続を想定したポートフォリオを構築

ファンド設定から3年が経過 ～市場環境と各アセットクラスの相対的割安さを踏まえた投資を実践



出所：大和アセットマネジメント、NWQ
※基準価額は分配金再投資ベース

本ファンドは2018年11月のファンド設定から3周年を迎えました。

今回は、設定から足元までをいくつかの期間に分け、各期間の投資行動を振り返ります。そして、足元の市場環境を踏まえた今後の見通しとリスク要因、各アセットクラスに対する戦略を解説いたします。

	期間１		期間2		期間3		期間4	
アセットクラス比率	'18/12	'20/1	'20/2	'20/10	'20/11	'21/6	'21/7	'21/12
投資適格社債	19%	28%	28%	32%	32%	24%	24%	22%
ハイ・イールド社債	37%	36%	37%	37%	36%	35%	34%	35%
優先証券	15%	14%	14%	12%	12%	14%	15%	17%
転換社債	5%	10%	10%	10%	11%	12%	11%	11%
普通株式	11%	9%	8%	5%	6%	12%	12%	11%
現金	13%	2%	3%	4%	3%	4%	3%	3%
ポートフォリオ全体	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

利回り	'18/12	'20/1	'20/2	'20/10	'20/11	'21/6	'21/7	'21/12
投資適格社債	5.9%	4.0%	3.9%	3.3%	2.9%	3.3%	3.0%	3.4%
ハイ・イールド社債	7.3%	4.5%	5.4%	4.6%	3.8%	3.5%	3.6%	3.9%
優先証券	6.4%	3.8%	4.8%	4.2%	3.5%	3.1%	2.8%	3.6%
転換社債	7.0%	6.1%	6.2%	6.6%	6.4%	6.1%	6.0%	6.1%
普通株式	4.1%	3.9%	4.8%	3.7%	3.4%	3.2%	2.9%	2.8%
ポートフォリオ全体	5.6%	4.3%	4.7%	4.1%	3.6%	3.5%	3.4%	3.7%

出所：NWQ、各月末時点の水準

期間１　ファンド設定～パンデミック発生以前

ファンド設定時の2018年11月～12月は、FRB（米国連邦準備制度理事会）による追加利上げにより、株式や債券は下落（利回りは上昇）局面となりました。当ファンドでは、2015年12月から続いた一連の利上げによって景気は減速するものの後退にまでは至らず、この下落は一過性であると判断し、6%を超える利回りの投資適格社債やハイ・イールド社債を中心に運用しました。ただし、米国景気には減速感が伴うため、社債の中でも特に格付けの高い投資適格社債を増やす一方で、株式は減らしました。2019年にはFRB が利下げに転じ債券価格が上昇、20年年初にかけて**高い利回りを享受しながら価格が上昇**する債券のパフォーマンスが良好で、基準価額は安定的に上昇基調となりました。

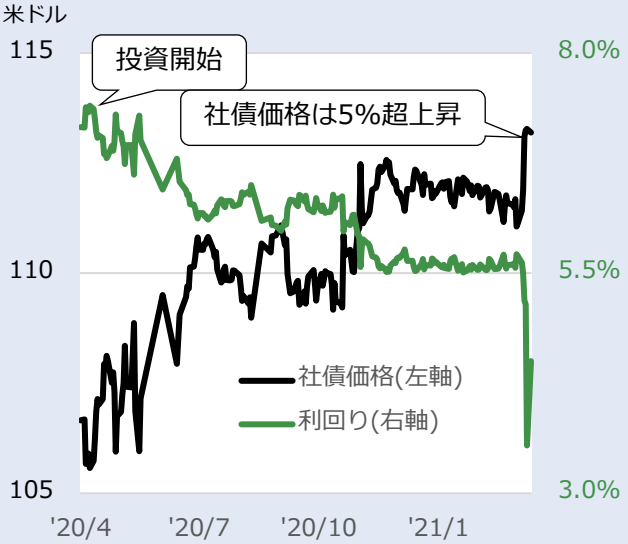
期間２　パンデミック発生～ワクチン誕生以前

2020年2月から3月にかけては、コロナ禍の拡大と経済停滞への懸念から、リスクの高い株式を減らし、社債を中心とした運用を継続しました。2020年4月以降は、3月のコロナショックにより財務リスク以上に債券価格が下落した投資適格社債やハイ・イールド社債を積極的に組み入れることにより、市場急落の戻りに加え、**高い利回りを享受しながら価格が上昇**する債券のパフォーマンスがよく基準価額は上昇基調に転じました。

2021年3月の動き	参照指数 騰落率	ファンドの 2月末利回り	ファンドの 3月末利回り	ファンドの 利回り上昇幅
投資適格社債	-7.5%	3.9%	5.1%	1.2%
ハイ・イールド債券	-10.7%	5.4%	7.4%	2.1%
優先証券	-7.1%	4.8%	6.6%	1.8%
転換社債	-13.5%	6.2%	7.3%	1.1%
普通株式	-17.1%	4.8%	5.1%	0.3%

（ 2020年2月29日～2020年3月31日、出所：NWQ、Bloomberg）

投資事例：ノードストローム社投資適格社債



（ 2020年4月17日～2021年3月29日、出所：NWQ）

コロナ禍前には、百貨店ノードストロームの超長期債および普通株式を保有していました。コロナ禍により、同社は手元流動性を確保するために増配や自社株買いを見送ると判断し、普通株式を売却して同社の中期債に投資しました。

コロナ禍局面での発行となったため、投資適格級でありながら、投資時点で6.8%を超える満期利回りを確保し、その後大きく値上がりしました。

期間３　2020年11月ワクチン誕生以降の経済正常化（回復）局面

ワクチンが誕生した2020年11月以降、経済活動の再開期待が高まりました。当ファンドでは、3%超の高い配当利回りでかつ、経済正常化で業績回復が見込まれる景気敏感な株式を増やしました。一方、経済正常化とともに米国長期金利の上昇を想定し、金利上昇により下落しやすい高格付けの投資適格社債を減らし、長期金利上昇が業績にプラスに働く大手金融機関が発行した、実質的には償還までの期間が短い優先証券を増やすことで高い利回りを確保しました。このような結果、2020年11月以降の基準価額は**ポートフォリオ全体で高い利回りを享受**しながら価格が上昇することで基準価額は一層上昇基調を高めました。

投資事例：ジェネラル・ダイナミクス社普通株式

（2020年12月31日～2021年6月30日、出所：NWQ）

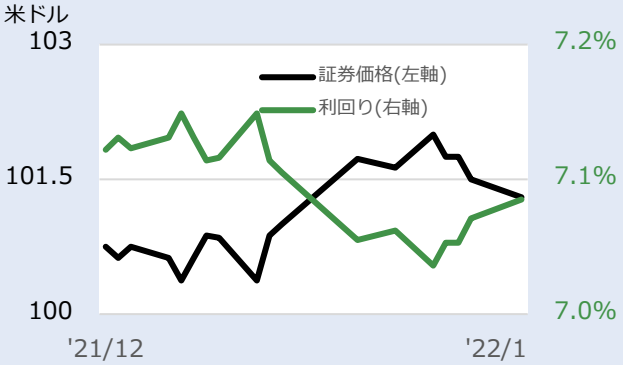
バイデン政権発足直後の2021年1月、良好なファンダメンタルズを有し、株価上昇余地が大きいと判断した防衛産業コングロマリットのジェネラル・ダイナミクス社の普通株式に投資しました。

その後、株式市場ではボラティリティが高まる場面が時折見られましたが、S&P500指数は約15%上昇し、ジェネラル・ダイナミクス社株式はそれを上回るパフォーマンスを示しました。

期間４　金融政策の転換

ワクチン接種と経済活動の正常化がある程度進み、景気回復ペースが徐々に緩やかになる中で、インフレ懸念からFRBが超金融緩和の転換に向けて動き始めました。長期金利は2021年5月に一旦ピークを打ち7月にかけて低下傾向にありましたが、8月以降再び上昇傾向にあります。当ファンドでは、金利上昇により下落しやすい格付けの高い投資適格社債を低位にとどめる一方、景気回復により財務状況の改善幅が大きいハイ・イールド社債を選別投資し、高めの投資比率を維持しました。それまでは株式を積み上げてきましたが、長期金利が上昇する中でハイテク株を中心に上昇が続いた株式市場は割高と判断し、株式にかえて、6%前後の高い利回りを有する転換社債や、高い利回りを有しながら一定期間後に変動利付債に転換するような優先証券の投資を増やすことで、**利回りを追求しつつ金利上昇・株式下落に備え**ております。

投資事例：ヴィストラ社優先証券



（2021年12月8日～2022年1月10日、出所：NWQ）

金利先高観が強まる中で高い利回りを確保すべく、発電事業を手がけるヴィストラ社の優先証券に投資しました。この証券は、当初5年間は7%の固定利払い、その後は米5年債利回り+5.7%の変動利払いに切り替わる方式で、今後の金利上昇局面でも高い利回りを確保できる銘柄です。

良好な経済状況継続を想定したポートフォリオを構築

足元の市場環境および見通し

昨年のコロナ禍以降の景気急回復局面から、今後は、オミクロン型変異株の流行など尾を引くコロナ禍が経済に水を差しつつも、ペントアップ需要（景気後退期に蓄積した未実現需要）を背景に個人消費や企業の設備投資は引続き旺盛に推移し、米国経済は緩やかながらも拡大する局面になると考えられます。従って、目下市場が織り込みつつある金融政策の転換（量的緩和（QE）の縮小～終了、利上げ開始、量的引締め（QT）開始）が直接引き金になって景気後退局面に陥ることはないと想定しております。

なお、足元の高いインフレ率は、サプライ・チェーンの問題が解消されればインフレ懸念は早期に解決すると期待していますが、一方でオミクロン型変異株は感染力が強いため、サプライ・チェーンの停滞が長期化し、コロナ禍前のインフレ率水準に戻るまでに相当期間高めのインフレ環境と対峙する局面となる可能性があります。したがって、現時点で見込まれている以上の金融引き締めの可能性が高まった場合には警戒を要すると考えています。

今後の投資計画

金融政策の転換過程にあっても米国経済は緩やかに拡大する局面に移行し、力強い企業活動が継続するとの想定の下で、高利回り資産への投資を継続する方針です。

社債市場では、多くの企業が好決算を発表し、質が高く潤沢な流動資産を有していることから、デフォルト率が低く、今後はさらなるクレジット評価の改善（格上げ等）が多くみられると予想しております。したがって、引き続きハイ・イールド債券を中心に**高い利回りを享受しながら価格上昇が期待できる銘柄への投資機会が多い**と考えております。また魅力的な利回り水準をもち、金利先高観のある局面にも耐えうる、一定期間後に利払いが固定金利から変動金利に変わるような優先証券の銘柄にも新規投資を行っています。

一方で、長期金利上昇の影響を受けやすく利回り水準が低い高格付けの投資適格社債への投資は引き続き低位に留める方針です。また普通株式は一時的にせよ価格下落リスクが高まる局面があると見ており、転換社債や、高利回りかつ景気拡大の恩恵を受ける割安な銘柄に選別投資してまいります。

改めてお伝えしたい、当ファンドの3つのポイント

POINT 1

債券並みのリスクで株式並みのリターン

POINT 2

有望企業が発行する株式、債券、優先証券、転換社債から低いリスクと高いリターンが期待される最適な証券を選択

POINT 3

高いインカム収入がパフォーマンスを下支え

当ファンドの運用を行なう Nuveen アセット・マネジメントについて

TIAA
世界最大級の年金運用機関
TIAA
（全米大学教職員保険年金協会）

—

nuveen
A TIAA Company
TIAAの資産運用部門
NUVEEN LLC
（ヌビーン）

nuveen
アクティブ投資の世界最大手
Nuveen アセット・マネジメント

運用資産残高：約117億米ドル（約1.3兆円*）　従業員：38人（内、運用担当23人）
業界経験年数：平均約19年　　運用チームの企業訪問数：約1,200件（2020年）
当ファンドの類似戦略のアナリスト人員数：株式／19人、株式以外／4人

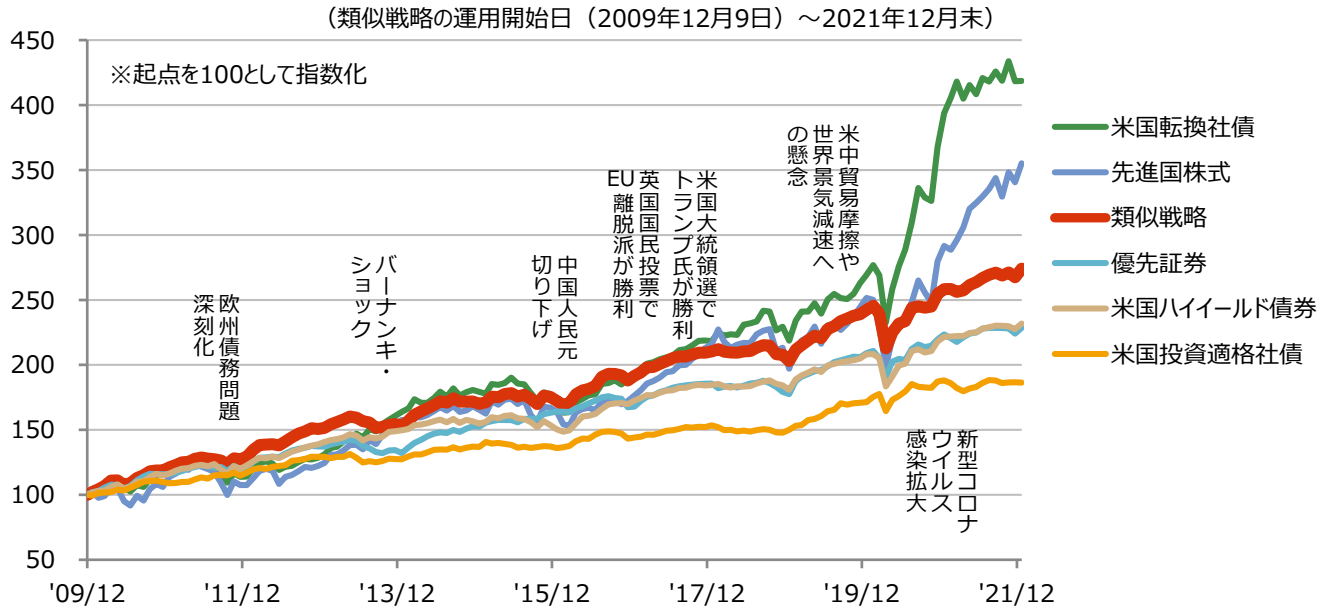
※2021年9月末時点。＊換算為替レートは、（2021年9月末時点のレート）1米ドル=111.29円。

（出所）Nuveen アセット・マネジメント

Point 1.　債券並みのリスクで株式並みのリターン

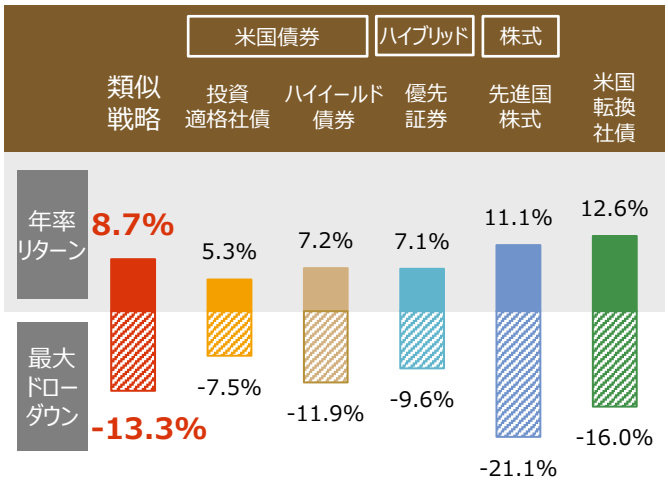
当ファンドの類似戦略は世界の米ドル建資産（株式、債券、優先証券、転換社債など）に投資しています。新型コロナウイルス感染拡大の影響により一時的に大きく調整したものの、設定来、市場が大きく変化する中においても、安定的なパフォーマンスを実現してきました。

当ファンドの類似戦略のパフォーマンス推移



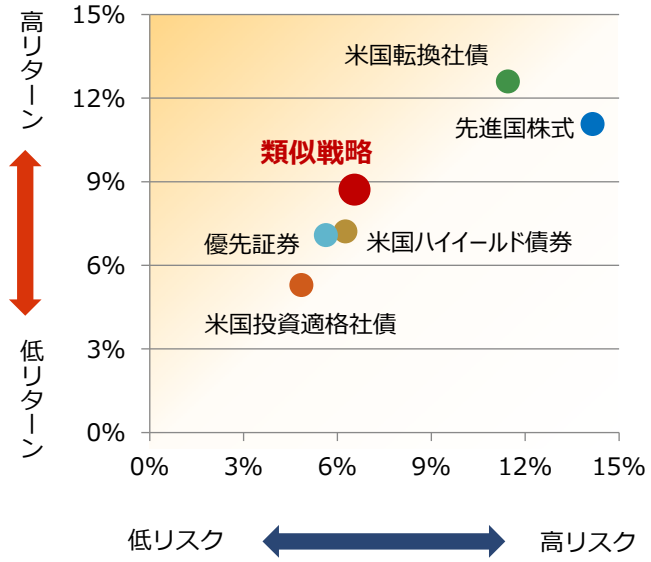
当ファンドの類似戦略の最大ドローダウン

（類似戦略の運用開始日（2009年12月9日）～2021年12月末）



当ファンドの類似戦略のリスク・リターン特性

（類似戦略の運用開始日（2009年12月9日）～2021年12月末）



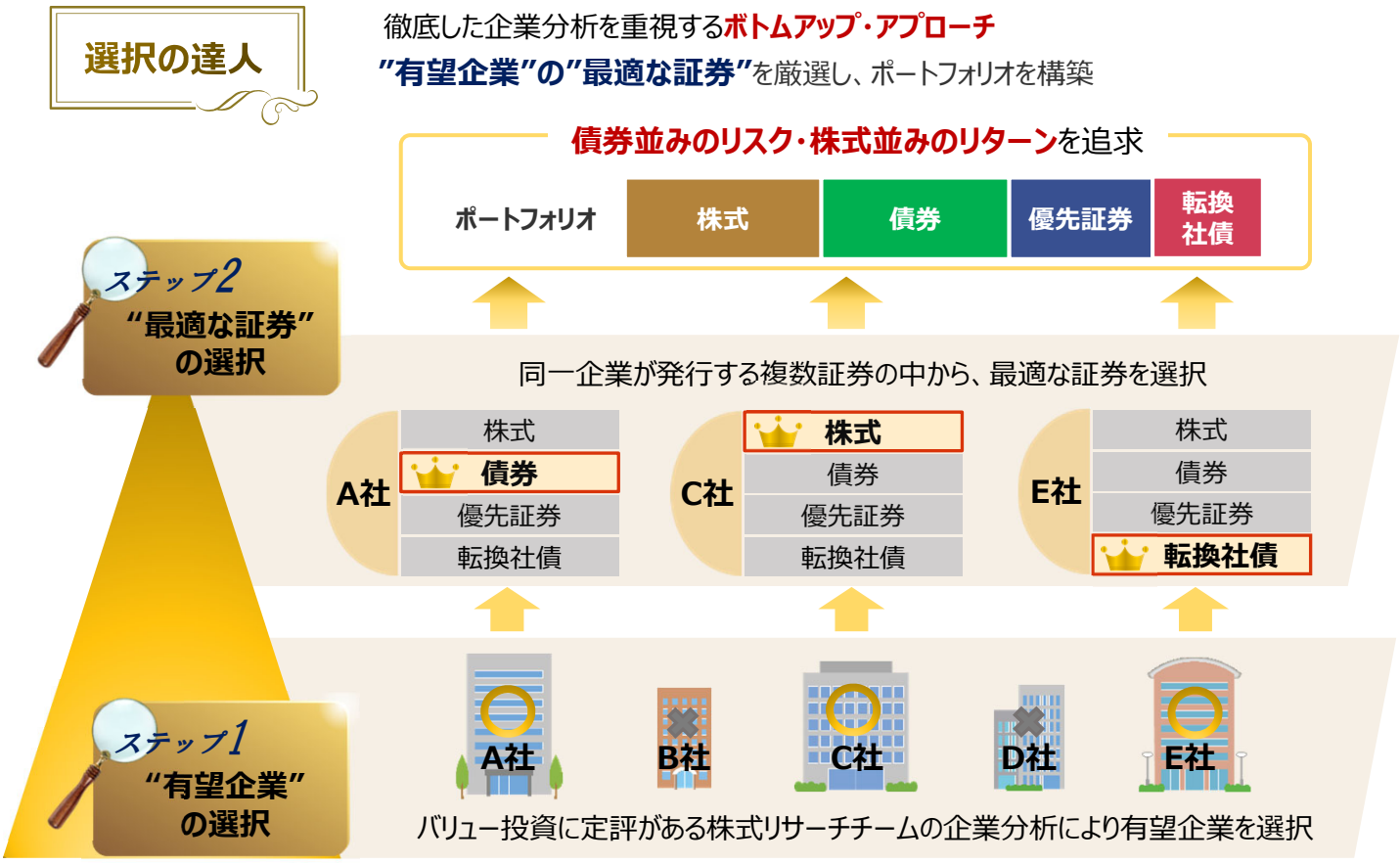
＊最大ドローダウン：過去の資産価格のピーク時からどれだけ下落したかを示します。その資産の安定性を図る尺度として使われます。
※上記資産はそれぞれ異なるリスク特性を持ちます。※類似戦略は米ドルベース、費用控除前のパフォーマンス。※類似戦略は、当ファンドと同様の運用手法を用いた類似ファンドの過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。※各資産は米ドルベース、トータルリターン。※「先進国株式」はMSCI World Index、「米国投資適格社債」はICE BofAML US Corporate Index、「米国ハイイールド債券」はICE BofAML BB-B US High Yield Index、「優先証券」はICE BofAML Fixed Rate Preferred Securities Index、「米国転換社債」はICE BofAML US Convertible Indexを使用。
（出所）Nuveen アセット・マネジメント、ブルームバーグ

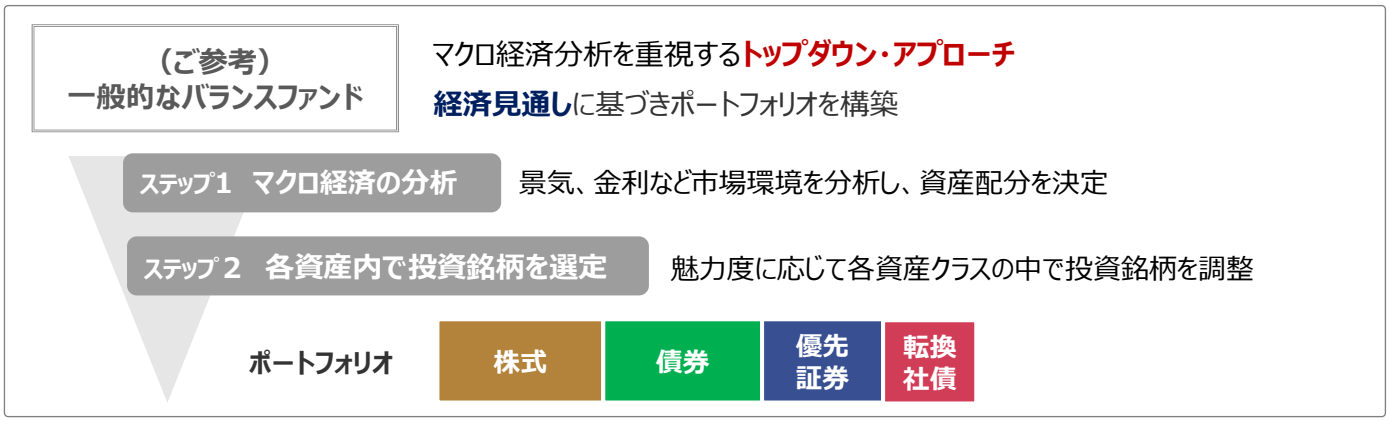
Point 2.　有望企業が発行する株式、債券、優先証券、転換社債から低いリスクと高いリターンが期待される最適な証券を選択

当ファンドは、マクロ環境の見通しに基づいて資産配分を行なう一般的なバランス型ファンドとは異なり、徹底した調査・分析に基づいて有望企業を選択し、その企業が発行する複数証券の中から、最も投資効率が良い（＝リスク調整後の期待リターンが高い）証券に投資します。

このような独自の投資戦略により、引き続き高水準のインカムと魅力的なリスク調整後リターンの獲得をめざします。

債券並みのリスク・株式並みのリターンを追求する選択方法



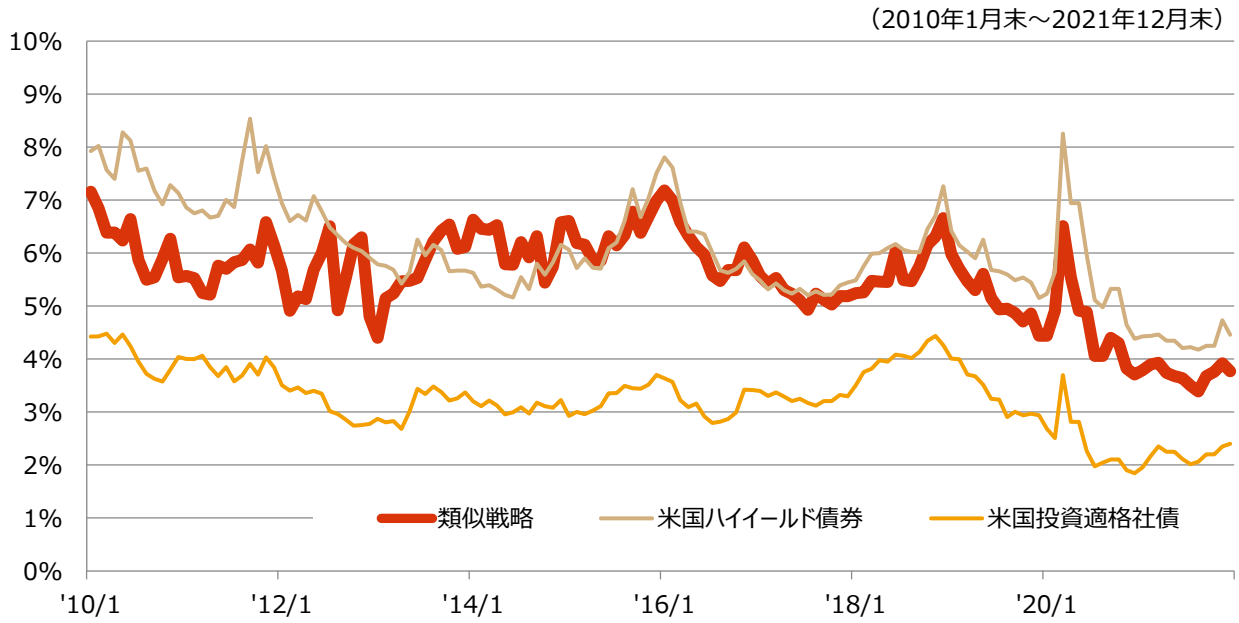


※上記は資料作成時点のものであり、今後見直す場合があります。※上図はイメージです。　（出所）Nuveen アセット・マネジメント

Point 3.　高いインカム収入がパフォーマンスを下支え

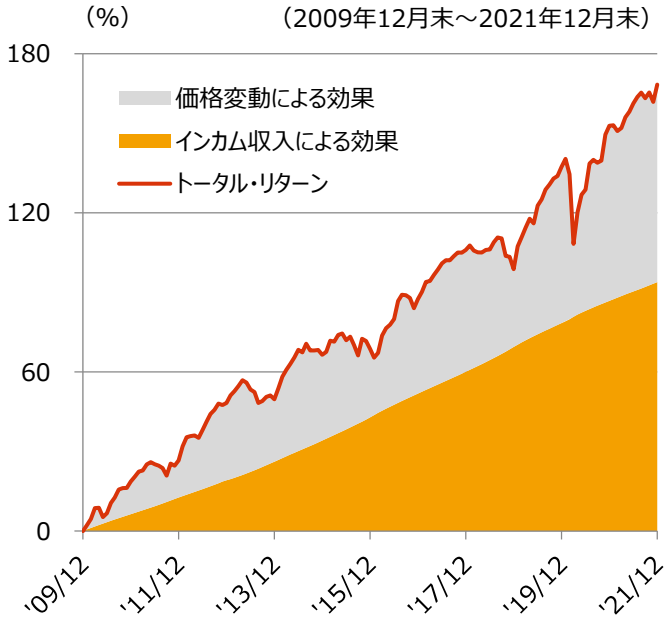
当ファンドの類似戦略の利回りは、相対的に高い水準を維持してきました。

利回りの推移



相対的に高いインカムの積み上げがパフォーマンスを下支えし、当ファンドの類似戦略は累積でプラスのトータル・リターンをあげています。

当ファンドの類似戦略のリターンの要因分析



（2010年～2021年）

トータル・リターン		①インカム収入	②価格変動
2010	18.7%	6.4%	12.3%
2011	6.7%	5.9%	0.8%
2012	17.1%	5.7%	11.4%
2013	0.9%	5.9%	-4.9%
2014	11.2%	6.3%	4.9%
2015	1.4%	6.5%	-5.2%
2016	11.1%	6.3%	4.8%
2017	9.9%	5.4%	4.5%
2018	-3.5%	5.9%	-9.4%
2019	19.4%	5.3%	14.1%
2020	6.5%	4.7%	1.8%
2021	6.1%	3.8%	2.3%
累積	**168.4%**	**93.9%**	**74.5%**

※上記資産はそれぞれ異なるリスク特性を持つものであり、利回りの比較はあくまでご参考です。※利回りは最終利回りを使用。※類似戦略は米ドルベース、費用控除前のパフォーマンス。※類似戦略は、当ファンドと同様の運用手法を用いた類似ファンドの過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。※「米国投資適格社債」はICE BofAML US Corporate Index、「米国ハイイールド債券」はICE BofAML BB-B US High Yield Indexを使用。

（出所）Nuveen アセット・マネジメント、ブルームバーグ

（ご参考）長期保有で安定したリターンを獲得

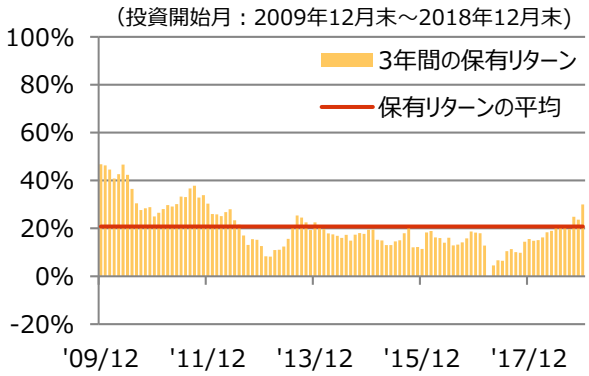
当ファンドの類似戦略は、相対的に高いインカムの積み上げにより、５年間継続保有したと仮定した場合、「為替ヘッジあり」「為替ヘッジなし」のいずれにおいても全期間プラスのリターンとなりました。

当ファンドの特徴である高いインカムは、時間の経過とともに安定的に積み上がっていくため、長期保有によってその効果を最大限に享受することができます。

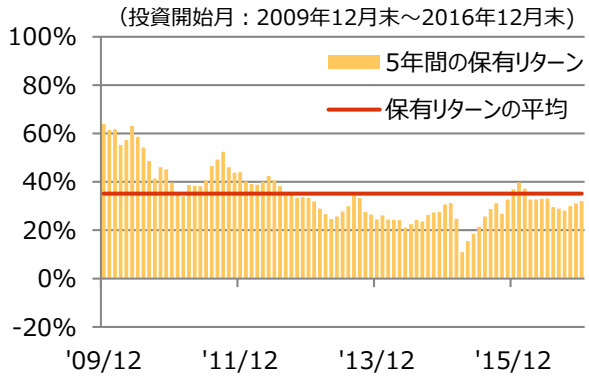
類似戦略の保有期間別リターン

為替ヘッジあり

〈3年保有の場合〉



〈5年保有の場合〉



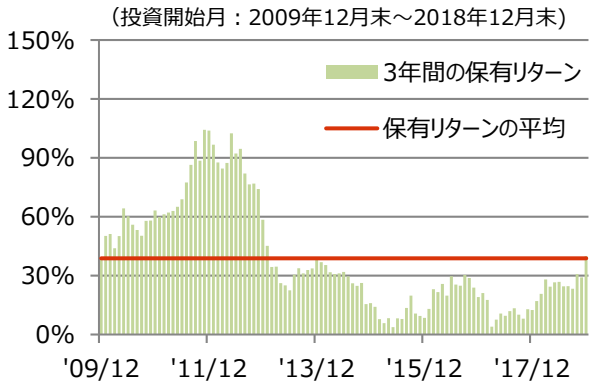
保有リターン　マイナス回数		
3年保有		**5年保有**
1回／109回	→	**0回／85回**

保有リターン　最低値		
3年保有		**5年保有**
-0.1%	→	**10.9%**

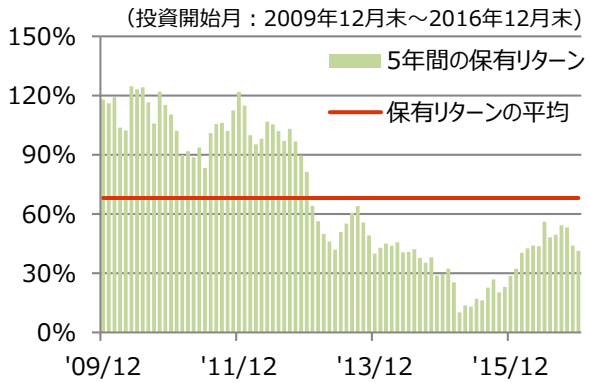
保有リターン　平均		
3年保有		**5年保有**
20.8%	→	**35.1%**

為替ヘッジなし

〈3年保有の場合〉



〈5年保有の場合〉



保有リターン　マイナス回数		
3年保有		**5年保有**
0回／109回	→	**0回／85回**

保有リターン　最低値		
3年保有		**5年保有**
3.7%	→	**10.0%**

保有リターン　平均		
3年保有		**5年保有**
38.8%	→	**68.1%**

※「3年間の保有リターン」において、例えば、「為替ヘッジあり」の'09/12の保有リターンは、2009年12月末から2012年12月末までの3年間保有したと仮定したリターン。「5年間の保有リターン」において、例えば、「為替ヘッジあり」の'09/12の保有リターンは、2009年12月末から2014年12月末までの5年間保有したと仮定したリターン。※「為替ヘッジなし」は円換算ベース。※上記の類似戦略は、当ファンドの投資対象ファンドである「グローバル・マルチ・ストラテジー－ヌビーン・エヌ・ダブリュー・キュー・フレキシブル・インカム・ファンド（円ヘッジ・クラス）（ヘッジなし・クラス）」と同様の運用チーム、投資哲学により運用された類似ファンドの米ドルベース、費用控除前のパフォーマンスを円ベースに換算した結果を表しており、当ファンドの運用実績とは異なります。また、あくまでも参考のために掲載したものであり、当ファンドの投資対象ファンドとは異なります。※上記は過去の実績を示したものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。※「為替ヘッジあり」は為替ヘッジコストを考慮しています。

（出所）Nuveen アセット・マネジメント、ブルームバーグ

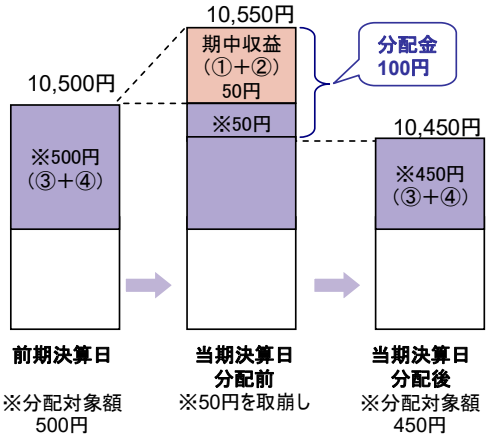
収益分配金に関する留意事項

◆ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

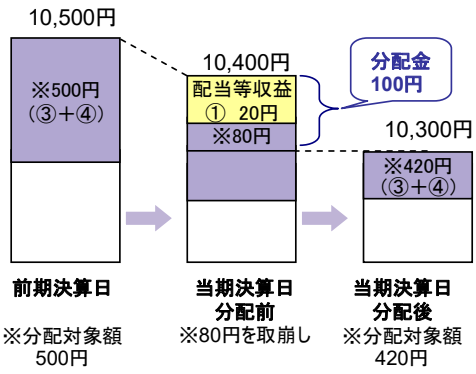
◆ 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



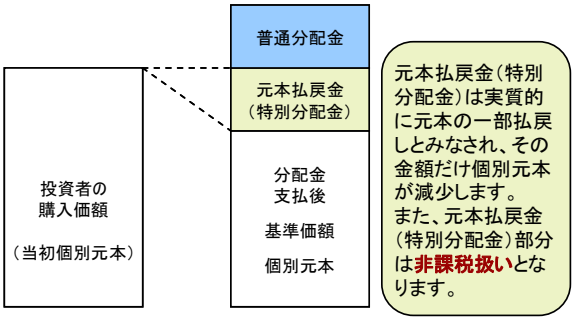
前期決算日から基準価額が下落した場合



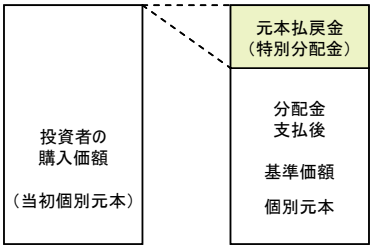
（注）分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

◆ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金　：個別元本（投資者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意ください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

●世界の米ドル建資産に投資を行ない、高水準のインカムと魅力的なリスク調整後リターンを追求することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。

ファンドの特色

1. 世界の米ドル建資産（株式、債券、優先証券など）に投資します。投資にあたっては、有望企業を選別のうえ、その企業が発行する証券の中で相対的に魅力度の高い証券を選択します。
   - ◆ ボトムアップ・アプローチにより、個別企業の財務状況、成長性や価格変動のきっかけとなる事象などに着目した評価･分析を行ない、有望企業を選別します。
   - ◆ 同一企業が異なるタイプの証券を発行している場合は、リスク･リターン効率などに着目して、相対的に魅力度の高い証券に投資します。
   - ◆ 運用はヌビーン・アセット・マネジメント・エルエルシーが行ないます。

2. 「為替ヘッジあり／隔月分配型」「為替ヘッジなし／隔月分配型」「為替ヘッジあり／資産成長型」「為替ヘッジなし／資産成長型」の４つのファンドがあります。
   為替ヘッジあり／隔月分配型、為替ヘッジあり／資産成長型
   ◆為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。
   ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
   為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。
   為替ヘッジなし／隔月分配型、為替ヘッジなし／資産成長型
   ◆為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。
   基準価額は、為替変動の影響を直接受けます。

   販売会社によっては「為替ヘッジあり／隔月分配型」「為替ヘッジなし／隔月分配型」「為替ヘッジあり／資産成長型」「為替ヘッジなし／資産成長型」のいずれかのお取扱いとなる場合があります。くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

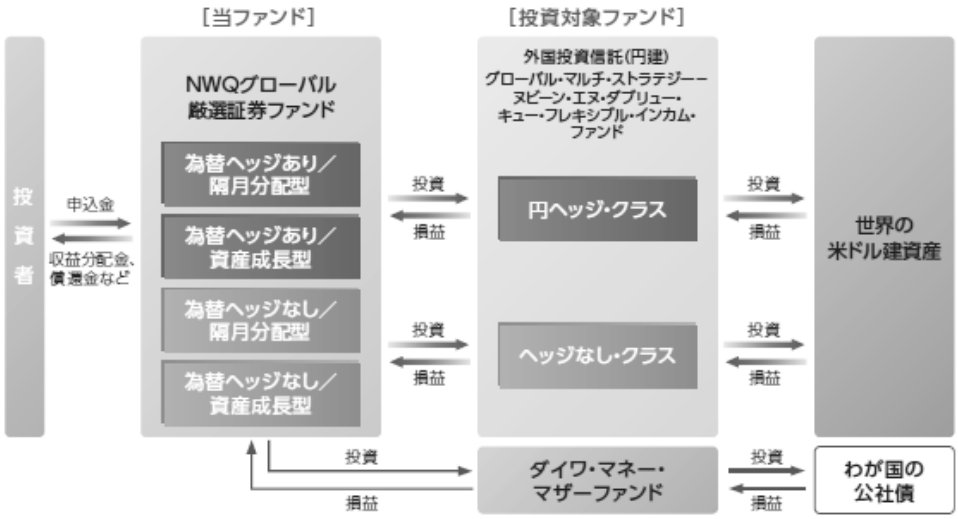
3. ［隔月分配型］は年６回、［資産成長型］は年２回決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

   ［隔月分配型］
   毎年１、３、５、７、９、11 月の各 17 日（休業日の場合翌営業日）に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。
   ※第１計算期間は、2019 年３月 17 日（休業日の場合翌営業日）までとします。

   ［資産成長型］
   毎年３月 17 日および９月 17 日（休業日の場合翌営業日）に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。
   ※第１計算期間は、2019 年３月 17 日（休業日の場合翌営業日）までとします。

ファンドの目的・特色

4. 当ファンドは、複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
外国投資信託の受益証券を通じて、世界の米ドル建資産に投資します。



◆ 各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。
① NWQグローバル厳選証券ファンド（為替ヘッジあり／隔月分配型）：為替ヘッジあり／隔月分配型
② NWQグローバル厳選証券ファンド（為替ヘッジなし／隔月分配型）：為替ヘッジなし／隔月分配型
③ NWQグローバル厳選証券ファンド（為替ヘッジあり／資産成長型）：為替ヘッジあり／資産成長型
④ NWQグローバル厳選証券ファンド（為替ヘッジなし／資産成長型）：為替ヘッジなし／資産成長型
◆ ①②の総称を「隔月分配型」とします。
◆ ③④の総称を「資産成長型」とします。
◆ ①②③④の総称を「NWQグローバル厳選証券ファンド」とします。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

●当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「価格変動リスク・信用リスク（株価の変動、公社債の価格変動、その他の価格変動）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」
※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。
※「為替ヘッジあり／ 隔月分配型」「為替ヘッジあり／資産成長型」は、為替ヘッジを行ないますが、影響をすべて排除できるわけではありません。なお、為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。
※「為替ヘッジなし／隔月分配型」「為替ヘッジなし／資産成長型」は、為替ヘッジを行なわないので、基準価額は、為替レートの変動の影響を直接受けます。
※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。
※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 〈上限〉2.2%(税抜 2.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 （信託報酬）	年率 1.1275% （税抜 1.025%）	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資対象とする投資信託証券	年率 0.55%程度	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する運用管理費用	年率 1.6775%（税込）程度	
その他の費用・手数料	（注）	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

（注）「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。
※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。
※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用：大和アセットマネジメント
Daiwa Asset Management
商号等　大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第352号
加入協会　一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料のお取扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。

■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。

■投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。

■当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

■当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

■分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

ＮＷＱグローバル厳選証券ファンド（為替ヘッジあり／隔月分配型）（為替ヘッジなし／隔月分配型）（愛称：選択の達人）　取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順）（金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社みずほ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第6号	○	○		○
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○

ＮＷＱグローバル厳選証券ファンド（為替ヘッジあり／資産成長型）（為替ヘッジなし／資産成長型）（愛称：選択の達人）　取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順）（金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社みずほ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第6号	○	○		○

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。